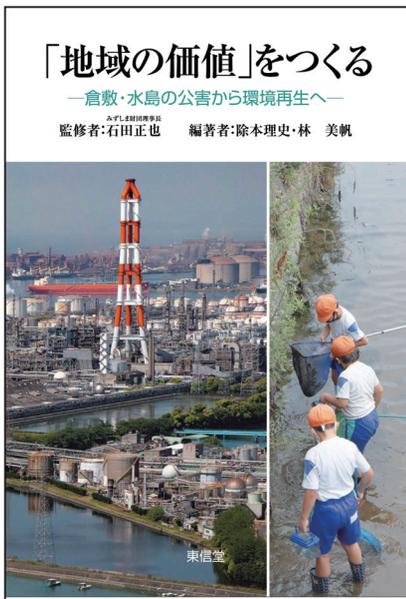


「地域の価値」をつくる

— 倉敷・水島の公害から環境再生へ —

石田正也(みずしま財団理事長) 監修 除本理史(大阪公立大学教授)・林美帆(みずしま財団研究員) 編著

A5判・並製・216頁・税込1980円(本体1800円) ISBN 978-4-7989-1801-3 C3036



内田 樹先生(神戸女学院大学名誉教授) 推薦!

「— この本を読んで、公害問題へのかかわりが『困難な過去』を物語として語り直すことを通じて深く記憶し、次世代における創造につなげるという向日的な運動にまで成熟していたことを教えてもらった。—」



公害問題の歴史の「影」に、地域の新たな価値という「光」を当てる取り組み!

日本の戦後復興の「負の遺産」とも言える公害問題。本書で取り上げる岡山県の倉敷・水島地域でもまた、戦後に重化学工業を誘致したことで公害問題による健康被害が深刻化し、地域社会に大きな軋轢が生まれた。住民・行政・企業など多様なアクター間の協働によって公害という「困難な過去」を乗り越え、脱炭素社会など地域に新たな「価値」を創り出す倉敷・水島地域の公害資料館創設までを描いた、公害問題研究の新地点!

注文書

(東信堂直接注文のみ公費購入可能)

※この注文書で直接東信堂宛 (FAX: 03-3818-5514 メール: toshindo.onlineorder1985@gmail.com または HP 注文フォーム) にご注文いただいた場合は、合計購入冊数が3冊以上の場合、送料無料。1冊～2冊ご購入の場合、送料200円～。海外配送は実費をお支払いいただきます。お支払いは、書籍到着後同封した請求書にてお願いいたします。また全国どの書店からでも注文可能です(定価販売)。メールでご注文頂く場合は、『「地域の価値」をつくる』●冊 注文書送付」と件名に書き添えて①御氏名②希望書籍タイトルと冊数③お支払方法(私費 or 公費。公費の場合は請求先機関をご記入ください)④お送り先住所(郵便番号とお電話番号も忘れずに)を本文にご記入、または必要事項記入済みの本チラシを添付してお送りください。

「地域の価値」をつくる 税込 1980円

冊

直接注文は
↓コチラ↓



honto は
↓コチラ↓



アマゾン は
↓コチラ↓



楽天ブックスは
↓コチラ↓



〒

御住所

御氏名

TEL

目次：「地域の価値」をつくる—倉敷・水島の公害から環境再生へ—

はしがき 序	(除本理史・林美帆)
水島の環境再生と資料館づくりの意義	(下野克巳)
水島地域の調査研究などに50年以上取り組んで	(磯部作)

第I部 公害と地域社会

第1章 戦後日本の地域開発と公害 —大気汚染訴訟から環境再生へ—	(除本理史)
1. はじめに	
2. 戦後日本の地域開発と公害	
(1) 深刻な公害被害の発生 (2) 環境政策の立ち遅れと四大公害訴訟	
(3) 高度経済成長の終焉と公害問題の変化	
3. 大気汚染訴訟と環境再生の提起	
(1) 被害者救済の原則 (2) 大気汚染訴訟から環境再生へ	
4. 環境再生の意義と課題	
(1) 環境政策の新たな領域	
(2) 集積利益から「非経済的価値」「地域の価値」へ	
(3) 「維持可能な地域」をめざして	
5. おわりに	
第2章 工業化と地域社会の変容	(香川雄一)
1. はじめに	
2. 水島の工業化と都市形成	
(1) 工業化以前の水島 (2) 水島における工業化	
(3) 人口増加と都市化の影響	
3. 工業都市化にともなう地域社会の変容	
(1) 水島における土地利用変化 (2) 水島の倉敷市への合併から3市合併へ	
(3) 工業都市化による居住者の変容	
4. 公害反対運動の展開と地域社会	
(1) 公害問題の発生とその拡大 (2) 公害反対運動の特徴と展開	
(3) 公害反対運動の展開に見られる地方政治と地域住民	
おわりに—結論と課題	
第3章 「倉敷市公害患者と家族の会」の軌跡 (江頭説子)	
1. はじめに—本章の課題と構成	
2. 公害被害者の組織化	
(1) 公害被害の発生と公害患者運動の萌芽	
(2) 運動の主体としての患者会へ (3) 患者会の取り組み	
3. 公害行政の後退と倉敷公害訴訟	
(1) 公健法見直しに対する反対運動 (2) 患者会を中心とする裁判闘争	
(3) 公害患者運動の再構築と「水島再生プラン」	
4. 和解後の取り組み	
(1) 公害防止・被害者救済の運動 (2) 健康回復の活動①—転地療養事業	
(3) 健康回復の活動②—あさがお会館での活動	
5. おわりに—地域の中での公害患者とその家族	

第II部 環境再生に向けて

第4章 「水島再生プラン」とまちづくりの現在	(傘木宏夫・藤原園子・塩飽敏史)
1. はじめに	
2. 「水島再生プラン」	
(1) プランの概要 (2) プラン実現に向けた取り組み	
3. 自主アセスメントと新プラン	
(1) 自主アセスメントの位置づけと進め方 (2) 「水島再生プラン」の再評価	
(3) 新プランの発表とモニタリング方法書の公開	
4. 市民による持続可能性アセスメント	
5. おわりに	
補論 水島における環境学習のまちづくり	
(1) 「環境学習を通じた人材育成・まちづくりを考える協議会」の発足	
(2) 「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」へ	
(3) 防災・減災に取り組むために学びあう	
(4) 公害資料館づくりに向けて	

第5章 瀬戸内海の高み問題と政策形成(除本理史・塩飽敏史)	
1. はじめに	
2. 高み問題の地域性と瀬戸内海の特徴	
(1) 高み問題の地域性 (2) 瀬戸内海における海底高み問題への着目	
3. 地域レベルでの高み対策の進展	
(1) みずしま財団の政策提言と岡山県瀬戸内海環境美化推進事業	
(2) 瀬戸内海高み対策検討会	
4. 海岸漂着物処理推進法の成立と改正	
5. 構築事業10年の成果	
6. おわりに	

第6章 公害経験を踏まえた健康づくり (尾崎寛直・藤原園子)	
—「くらしきCOPDネットワーク」による地域連携の意義—	
1. はじめに	
2. 公害裁判後の新たな課題	
(1) 公害病認定患者の高齢化問題 (2) 生活実態調査と保健事業の課題	
3. COPDと呼吸リハビリテーション	
(1) COPDへの着目 (2) 呼吸リハビリテーションの意義とCOPD治療をめぐる連携	
4. 「くらしきCOPDネットワーク」の発足と地域連携の深化	
(1) 「時の利」「地の利」「人の利」	
(2) 「くらしきCOPDネットワーク」を通じた地域連携	
5. おわりに—公害の経験を活かす「地域まるごと健康づくり」	

第7章 「地域の価値」をつくる (除本理史・林美帆)	
—「みずしま地域カフェ」の取り組みから—	
1. はじめに	
2. 「地域の価値」とパブリック・ヒストリー実践	
(1) 現代資本主義の動向と「地域の価値」(2) 「困難な過去」から「地域の価値」へ	
(3) 意味づけをめぐるコンフリクト	
(4) パブリック・ヒストリー実践における協働と「記憶の解凍」	
(5) 公害経験の継承とストーリー構築	
3. 「みずしま地域カフェ」の取り組み	
(1) 大阪・西淀川での経験 (2) 「みずしま地域カフェ」への展開	
4. 「地域の価値」をつくる	
(1) ストーリーを構築し、主体的参加を促す	
(2) 「困難な過去」と向き合い、地域の将来像を展望する	
5. おわりに	

第8章 脱炭素を水島から (上園昌武・歌川学・近江貴治)	
1. はじめに	
2. 逼迫するカーボンバジェット	
3. 岡山県の脱炭素シナリオ	
(1) 脱炭素対策の考え方と手法 (2) 岡山県の温室効果ガス排出量の特徴	
(3) 脱炭素シナリオ ① 岡山県 (4) 脱炭素シナリオ ② 倉敷市	
(5) 脱炭素を地域の雇用創出・地域発展に活かす	
4. 脱炭素地域づくりで求められる支援策	
(1) 自治体のニーズ (2) ボトムアップ型の地域づくりで必要な中間支援組織	
(3) 水島地域でどのように進めていくべきか	
5. おわりに	

第III部 倉敷・水島を語る

1. 患者会結成から50年を迎えて	(太田映知さん)
2. 公害病とともに生きる	(小畑照子さん)
3. 医師として公害に向き合う	(里見和彦さん)
4. 地区住民として、市役所OBとして水島に関わる(岡浩二さん)	
5. ふるさと水島のまちづくりに取り組む	(古川明さん)
6. 公害防止に尽力した経験を踏まえ、環境のまちづくりへ	(福留正治さん)

資料 / あとがき / 索引 / 執筆者紹介